

A female golfer is captured in a dynamic mid-swing pose. She is wearing a white short-sleeved polo shirt with dark blue accents on the collar and sleeves, a light blue pleated skirt, and a dark blue baseball cap with a logo. Her right arm is extended forward, and her left arm is bent, holding a golf club. She is wearing white athletic shoes with dark stripes. The background is a blurred green field with trees.

「決勝でないのはちよつと残念ですが、どんな勝負でも勝ちに拘りたいので3位で終わりたいです」（山内）。また、「準決勝では自滅してしまつたので、そこを反省してもう少し丁寧なゴルフをします（佐渡山）。」前組の決勝戦とは別次元の遠眺を志す二人は、熾泉とダイヤモンド模

天好（お・てんよ）六甲）に3ダウ、佐渡山は大本命して夢は途切れたが、最終日の3位決定戦で激突した経験豊富な山内と、破竹の勢いを見せる佐渡山が、研ぎ澄ませた集中力でアマチュアリズムを全うする感動のフィナーレを迎える。

九州勢対決
山内VS佐渡山

ここまで八面六臂の活躍を
をみせた二人は、準決勝で山
内が、五回に2アウトで疲労
困憊の消耗戦を耐え抜き、準
決勝に勝ち上がった。

歓喜と悲哀が入り混じった5日間



山内	AS				AS	lup	AS	AS			AS					AS	AS	AS	lup
Hole	-		-	-			-				-	-	-	-	-		-	-	
Par	4	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	4	4	3	4	5	4	4	3	5	4	3	5	4	4	4	3	5	4	4
佐渡山																			
	AS	lup	lup	lup	AS		AS	AS	lup	lup	AS	lup	lup	lup	lup	AS	lup	AS	AS

一 所懸命

イ合戦は佐渡山の「アツプ」で18番を迎えた。後が近い山内は、手の汗を拭って慎重に仕切り直した。テイションヨットを右サイドのクロスパンに打ち込んだが、グリーン左サイドのカラーで持ち前のアブローチでキツチリ寄せ起死回生のパーセーブ。同じパンカのアゴ際からレイアツプを余蘊なくされた佐渡山はピン下5番に3才おすも拾えず、振り出しに戻った。フアイトはエキストラホール日へ続いた。そして、分けたミドルの20ホール目、フェアウェイからの2打目を右サ

子で氣を吐いた15歳との同儕を呑む其壯麗勝負は、感動覚めやらす激戦の幕を開した。歡喜と落胆が入り混じる濃厚な5日間(「嬉しい一言です。前半は自分のミスで獲られたボールもありましたが後半は獲ったボールも獲られたボールもバーディー決着が多くて良いゴルフが出来ました。').また、中学生で唯一ベスト4に進んだ佐渡山は「最初は予選を通ることが目標だったんですけど、マッチプレーに行けた事は自信になりました。新たな翼を広げて完全燃焼した二人は、壮大な北の大地に清々しい笑顔を残した

佐渡山理莉 沖縄・オリオン嵐山ゴルフ倶楽部
15歳・緑風学園久志中3年



イドに外した佐渡山に対し、右ラフからピン左8球に乗せた山内が、失策に乗じるスライインを読み切り終結7年連続出場の19歳に臨する

Best16

HINA ARAKAKI

新垣比菜 沖縄・カスチャGC
16歳 興南高等学校2年

QUALIFYING ROUND 1 70(34・36)

QUALIFYING ROUND 2 69(36・33)

Quarterfinal MATCHI/5 IUP

新垣	AS			AS	lup	lup	lup	lup	AS		AS	lup	lup	AS	AS	lup	lup	lup
	-		-															
Hole	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
Par	4	4	3	4	5	4	4	3	5	4	3	5	4	4	4	3	5	4
西岡																		
	AS	lup	lup	AS					AS	lup	AS			AS	AS			



世界アマチュアランキング日本人トップの75位(6月現在)に立つ新垣比菜(カヌチャ)は昨年に続いてマッチプレーに進出したがベスト16で競技を終えた。

この1年間、課題の飛距離を伸ばすことをテーマに練習に取り組んできた新垣は、20ヤード余りアップ、力強さを増したドライバーで臨んだ4月のステップアップツアーでプロを抑えて優勝を果たした実力を発揮し、入った新垣は、「アイアンショットがしっかりとつかまらずに、コースリミットに達する」と、ピンを狙撃する際に時折顔を覗かせる悪癖と葛藤しながらも、2日間のクオリファイングを九州勢トップの通算5アンダーパーの準々決勝まで進出すると、「ひとまずつまずき上がった1回戦で大阪・我孫子中2年の西岡利佳子(山東)戦を1アップで下して昨年(1回戦敗退)より1ステップ階段を上がり、連覇を狙う学法石川高3年の蛭田みな美との好カードとなった2回戦では激しいシーソーゲームを展開。前半を1アップで折り返して一度もリードを譲らなかったが、最終4ホールの要所でショットの精度を取り戻した蛭田に15番で5打、16番で3打からバーディを奪われると、最終18番は50ヤード止めの一撃を食らい、この日、良薬のバーディに恵まれずに結核した新垣もピン奥5打から沈めて一矢を報いたが、1ダウンで苦戦した。

第57回日本女子アマチュアゴルフ選手権競技

歓喜と悲哀が入り混じった5日間

Best16

KAIRA NABESHIMA

鍋島海良 熊本・熊本空港CC
15歳 熊本国府高等学校1年

QUALIFYING ROUND 1 71(37・34)

QUALIFYING ROUND 2 69(34・35)

Quarterfinal MATCHI/15 3and1

鍋島	AS	1up		2up	3up	3up	4up	3up	3up	3up	3up	2up	2up	2up	2up	3up		
Hole	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
Par	4	4	3	4	5	4	4	3	5	4	3	5	4	4	4	3	5	4
西山	-	-				-			-	-	-		-	-	-			
	AS																	



また一人、ゴルフ王国九州から大型プレーヤーが誕生した。鍋島海良・なべしまいらい。九州大会を15位タイで突破して初の全国大会に臨んだ今大会、予選初日を4バーディ・3ボギーの71で16位タイにつけると、2日目は5バーディ・2ボギーと、いずれも後半に続伸する貴族の試合運びで2日間ストローク自己ベストの通算5アンダーパーをマークし、5位タイでマッチプレーに進出した。予選5位までに付与される来年度のシード権を手中に収めて勢いに乗る鍋島は、マッチ1回戦で予選初日トップの専修大4年西山美希(小田原)を相手に7番まで4バーディを奪う怒涛のラッシュをみせ3アップで折り返すと、12番で一つ戻されたが17番で2ピンのバーディパットを先に沈めて3&1で撃破。兵庫・原田中3年の安田祐希(洲本)との2回戦ではショットの精度を欠き、序盤から自らのミスを重ねられるベタピンのバーディ攻勢を受け3&2で敗れたが、260ヤード超級のドライバーを武器にポテンシャルの高さを遺憾なく発揮した。

普段、無邪気な明るさで周りを照らす鍋島は「めっちゃ悔しかった...」。クラブハウスから最も近い16番から帰還すると、空虚感から人目を憚らず悔し涙を流した。大会1週間前から着手したスイング改造で患った左手首にアイシングを施しながら「不撓不折」を貫き覚悟した15歳が、全国デビュー戦で潜在能力を開花した。



Best32

NATSUMI NAKANISHI

仲西菜摘 沖縄・オリオン嵐山GC 15歳 宜野座高等学校1年

QUALIFYING ROUND 1 74(38-36) QUALIFYING ROUND 2 71(35-36)

●1回戦 vs 稲見南幸(東京・長太郎) 3&1

2日間全選手がホールアウトし、通算イーブンバー・144ストロークまでの31人が決定。そして、自己ベストの71をマークして通算1オーバーでホールアウトした初出場の仲西菜摘(オリオン嵐山)は、残り1枚の切符を巡る10人によるプレーオフに挑んだ。

1ホール目の10番(パー4)・5選手づつ分かれて2組目にティオフした仲西は、ドライバでフェアウェイ左サイドを捉え、残り200ヤードを3番ウッドで振る抜き、「今日初めてまっすぐに飛んでくれました」とポイントにピンに届いて50ヤード(「減えました」と夢を繋ぐバーディーを決めると、コースサイドで見守った「ひなちゃん(新垣)とわりちゃん(佐渡山)」からおめでとうと言われ、戦ではメダリストの稲見に3番まで善戦するも最終に突き放されて3&1で敗れたが、「何が足りないのか解った。スウィキリした。初陣の九州大会も逆境からライン上の15位タイに滑り込んで嬉し涙にむせんだシンデレラガールは、初物づくしの密な1ヶ月を通じて、掛け替えのない宝物を手に入れた。



Best32

YU TAJIMA

但馬友 大分・大分CC 17歳 大分高等学校3年

QUALIFYING ROUND 1 71(36-35) QUALIFYING ROUND 2 71(35-36)

●1回戦 vs 王天舒(兵庫・六甲) 4&3

初のマッチプレーに進出した但馬は1回戦で今大会ランナーアップの王に4&3で屈したが、「プレッシャーのある中で自分のゴルフが出来たのは良かった。ちょっと成長してるかも」と収穫を口にした。

右に曲げたがバーディー2番でバンカーから目覚めたチップインバーディーを奪った但馬は、3年連続出場(3回目)の大舞台で高校生最後のゴルフを鳴らした。

初日はショットの精度が定まらずに悪戦苦闘しながら、5バーディー・4ボギーの71で10位タイ発進。グリップと体の距離を修正した2日目は2バーディー・1ボギーにまとめで通算2アンダーバーの12位タイで悲願のマッチプレーに駒を進めたが、歓喜とともに持病の腰痛と向き合う満身創痍の但馬は1回戦でマッチアップの王に3バットで1番を失い、その後も連続バーディーで積み重ねる王に1番で4ダウンを喫すと、迎えた15番で終。バーディーを奪えず電光石火のように過ぎた初マッチに、「自分のゴルフは出来たけど、これからはライオンを説き力をつける事」と対峙した。

第57回日本女子アマチュア

ゴルフ選手権競技 歓喜と悲哀が入り混じった5日間

Qualifying Round九州関係選手成績

氏名	所属	TOTAL	QF1round	QF2round
4 新垣 比菜	カヌチャ	-5 139	70 (34・36)	69 (36・33)
5 鍋島 海良	熊本空港	-4 140	71 (37・34)	69 (34・35)
8 佐渡山 理莉	オリオン嵐山	-3 141	72 (34・38)	69 (36・33)
12 但馬 友	大分	-2 142	71 (36・35)	71 (35・36)
★勝 みなみ	鹿児島高	-2 142	71 (35・36)	71 (37・34)
21 山内日菜子	宮崎レイクサイド	-1 143	70 (32・38)	73 (34・39)
25 後藤 未希	大博多	±0 144	72 (35・37)	72 (37・35)
32 仲西 菜摘	オリオン嵐山	+1 145	74 (38・36)	71 (35・36)
——以上、マッチプレー進出者——				
42 田中 瑞希	タナホ・パシフィック	+2 146	73 (35・38)	73 (35・38)
大里 桃子	熊本空港	+2 146	72 (35・37)	74 (35・39)
47 ★三浦 桃香	フェニックス	+3 147	78 (40・38)	69 (36・33)
53 楠本 彩乃	肥後サンパレー	+4 148	76 (38・38)	72 (37・35)
井上 りこ	大手前大学	+4 148	69 (34・35)	79 (40・39)
砂川 翔子	沖縄国際	+4 148	77 (38・39)	71 (35・36)
58 皆吉愛寿香	和歌山・サザン	+5 149	76 (38・38)	73 (39・34)
82 岩切 夏乃	美津宮	+7 151	75 (36・39)	76 (37・39)
89 織西 諒里	若山	+8 152	74 (37・37)	78 (36・42)
98 松尾 奏天	大隅	+9 153	78 (40・38)	75 (37・38)
104 中西 絵里奈	大隅	+10 154	74 (34・40)	80 (41・39)
鶴長 由佳	琉球	+10 154	75 (38・37)	79 (39・40)
116 大輪 美優	日本大学	+15 159	76 (39・37)	83 (40・43)
122 岩水 華奈	和歌山・サザン	+16 160	80 (41・39)	80 (42・38)
125 元永 華奈	鹿児島ロイヤル	+18 162	82 (41・41)	80 (41・39)



Best32

MIYU GOTO

後藤未希 福岡・大博多CC 14歳 沖学園中3年

QUALIFYING ROUND 1 72(35-37) QUALIFYING ROUND 2 72(37-35)

●1回戦 vs 加間奈紗(茨城・水戸レイクス) 8&7

「出場2回目でもマッチに行けたのは良かった」と充実の表情を浮かべた予選ラウンドは、バットに苦戦した初戦を1バーディー・1ボギー72で耐えカッターライン上に踏み止まり、一転、球が散った2日目はバットで凌いで3バーディー・3ボギーの72で通算イーブンバー。昨年65位タイの苦汁を払拭する25位タイで待望のマッチ進出を決めた。

1回戦では昨年の日本ジュニア2位の畑岡に、バンカーに入れた出だしは1番で、3日間通じて初めてボギーが先行してリードを許すと3・5番でバーディーを奪われ暗雲。続く6番からは連続ボギーを叩いて朝御不能に陥り、容赦なく攻め続けるプレハブスタイルに圧倒され6ダウンで折り返すと、本来の力を発揮できずに10番から連敗され8&7で終戦。歓喜から一夜明けたマンツーマン対決はホロ苦い結果に終わったが、「(予選)2日間は難しいコースでしっかりとマッチに通過して、特にショットアイアンは自信になった。来年はベスト4を目指す。想像力を欠きたてる大舞台で、衝動に突き動かされた次世代を担う大器は表情を引き締めた。